

**TOSHIBA**

# ログ収集システム for e-STUDIO v1.30A

## メンテナンスガイド

© 2008 – 2021 Toshiba Tec Corporation All Rights Reserved

本書は、著作権法により保護されており、東芝テック株式会社の承諾がない場合、本書のいかなる部分もその複写、複製を禁じます。

### 商標

- Microsoft、Windows、Windows NT、またはその他のマイクロソフト製品の名称は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- e-STUDIO、e-BRIDGE、TopAccess は、東芝テック株式会社の商標または登録商標です。
- その他、本書および本ソフトウェアに掲載または表示されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標である場合があります。

### 知的財産権

本書は、著作権法により保護されており、東芝テック株式会社（以下、「当社」といいます。）の承諾がない場合、本書のいかなる部分もその複写、複製、転載を禁じます。

本書で使用される当社、当社の関係会社又はその他の会社等、各社の会社名ならびに各社の製品名又はサービス名は、各社の商号、商標、標章に関する権利として、商標法、不正競争防止法及びその他の法律で保護されています。これらを当社、当社の関係会社又はその他の会社等の許諾を得ることなく使用することはできません。

### 免責事項

次のいずれかに該当して発生した障害については、当社は責任を負いません。

1. 取扱説明書記載事項に反するお取り扱い、お取り扱い上のはなはだしい不注意および誤用による場合
2. 火災、天災、地震、自然災害、異常気象、異常電圧、これらに類する不可抗力事由による場合
3. 当社が認定するサービスエンジニア以外による改造、分解、移動、修理に起因する場合
4. 当社が推奨するコピー用紙、その他消耗品、部品以外の使用による場合
5. 当社が関与または関知しないハードウェア、ソフトウェアの使用、又はそれら等との接続、結合、組み合わせに起因する場合
6. 上記以外の場合においても、本製品、オプション、およびそれらに付属または内蔵のソフトウェアの使用または使用不能（故障、誤動作、ハングアップ、ウイルス感染その他の不具合を含むが、これに限定されない）から生じた、逸失利益、データの損失、その他特別な、付随的、結果的、間接的損害をはじめとする損害、および第三者からの請求等について、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合であっても、弊社は一切責任を負いません。

OMJ190043A0

R191120W4301-TTEC

Ver01 F 発行 2021 年 3 月

## 目次

---

はじめに	3
第1章 バックアップ	4
概要	4
スクリプトの準備	4
バックアップの実行	6
タスクの作成と登録	7
第2章 リストア	12
リストアの実行	12
第3章 JOB ログ収集時のエラーリカバリー	19
概要	19
SOAP 通信リカバリー	19
リカバリーツール エラー例	27
SNMP Trap 通信リカバリー	28
第4章 本システムの動作変更	29
ディスクバリの動作を変更する場合	29
定時排出の動作を変更する場合	29
カウント集計の動作を変更する場合	30
Windows イベントログへの登録について	30
1 ページに表示する項目数を変更する場合	32
デバイスの管理者パスワードを暗号化して設定する場合	33
第5章 デバイス監視通知	34
通信エラー	34
一括編集デバイス数エラー	34
収集エラー	35
0 件収集エラー 1	35
0 件収集エラー 2	36
0 件収集エラー 3	36
ログインエラー	37
自動更新	37

## はじめに

---

本書ではログ収集システム for e-STUDIO(以降、本システム)の運用稼働中のメンテナンス手順、JOB ログの復旧手順、本システムの監視条件定義方法を説明しています。

## 第1章 バックアップ

### 概要

データベースメンテナンスの概要を示します。

- (1) データベースバックアップ機能  
データベースのバックアップを行います。
- (2) インデックスの再構築  
インデックス(キー項目インデックスも含む)を再構築します。

※バックアップのスケジュール実行は Windows Server の「タスクスケジューラ」を使用します。

### スクリプトの準備

本システムパッケージの【BackupScript】フォルダにバックアップ用の各種スクリプトが格納されています。

- (1) メンテナンス実行バッチファイルの修正  
データベース接続情報、各種格納フォルダ情報を編集します。

ファイル名【MFPMaintenance.bat】

- ・データベース接続情報  
ファイル上部の「DB 接続用変数」を実行環境に合わせて編集します。

```
REM DB 接続用変数
set DBUser=sa
set DBPassword=mfpjob
set DBServer=mfpjobsv¥SQLEXPRESS
set DBName=MFP
```

項目名	バッチファイル内の記述	初期値
データベース接続時のユーザ名	DBUser	sa (SQLServer のユーザーID 固定値)
データベース接続時のパスワード	DBPassword	mfpjob (データベースインストール時に設定した値)
データベースサーバ名	DBServer	[コンピュータ名]¥SQLEXPRESS
データベース名	DBName	MFP

・ログ収集システムセットアップ情報

ファイル上部の「メンテナンスフォルダ変数」を実行環境に合わせて編集します。

```
REM   メンテナンスフォルダ変数
set MFPBackupBasePath=E:¥Backup
set MFPBackupDBPath=%MFPBackupBasePath%%¥DBName%
set MFPBackupScriptPath=C:¥MFPSystem¥BackupScript
```

項目名	バッチファイル内の記述	初期値
バックアップフォルダ名	MFPBackupBasePath	E:¥Backup
バックアップスクリプト格納フォルダ名	MFPBackupScriptPath	C:¥MFPSystem¥BackupScript

(2) データベースバックアップスクリプトファイルの修正

データベースバックアップファイル情報を編集します。

ファイル名【MFPDBBackup.sql】

・データベースバックアップファイル情報

バックアップファイル名を実行環境に合わせて編集します。

```
BACKUP DATABASE [MFP] TO DISK = N'E:¥BackUp¥MFP¥MFP.bak' WITH NOFORMAT,
NOINIT, NAME = N'MFP-完全データベースバックアップ', SKIP, NOREWIND,
NOUNLOAD, STATS = 10
GO
```

項目名	初期値
データベースバックアップファイル名	E:¥BackUp¥MFP¥MFP.bak

(3) 本システムファイルバックアップバッチファイルの編集

本システムファイルのバックアップバッチファイルのセットアップ情報を編集します。

ファイル名【FileBackUp.bat】

・本システムセットアップ情報

セットアップ情報を実行環境に合わせて編集します。

```
set CopySrc=C:¥MFPSystem
set CopyDest=E:¥Backup¥MFPSystemBackUp
```

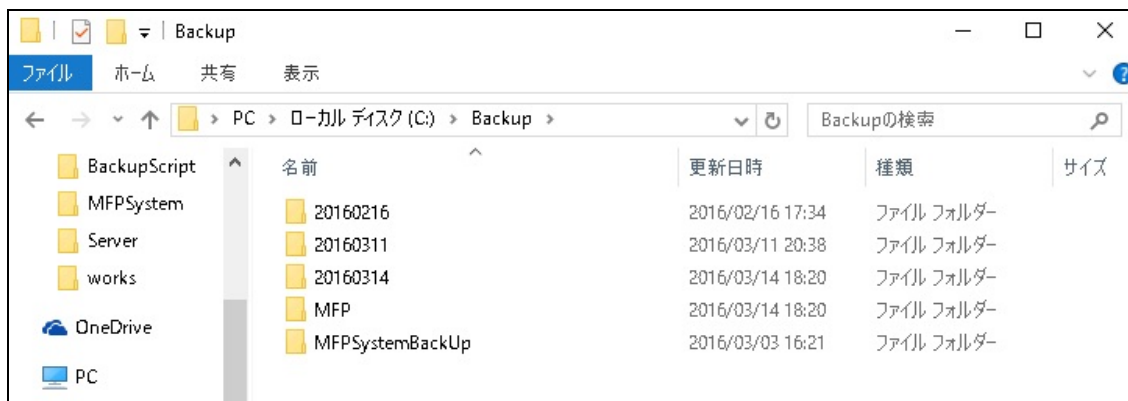
項目名	バッチファイル内の記述	初期値
本システムセットアップフォルダ	CopySrc	C:¥MFPSystem
本システムバックアップフォルダ	CopyDest	E:¥Backup¥MFPSystemBackUp

## バックアップの実行

バックアップを手動で実行する場合は、コマンドプロンプトを管理者権限で起動し、カレントディレクトリを [MFPSystem] フォルダに移動してから“MFPMaintenance.bat”を実行します。

```
C:\WINDOWS\system32>REM ログ収集システムメンテナンスを行います。
C:\WINDOWS\system32>REM 1.データベースのバックアップ
C:\WINDOWS\system32>REM 2.インデックス再構築
C:\WINDOWS\system32>REM 3.ファイル圧縮
C:\WINDOWS\system32>REM 4.システムファイルバックアップ
C:\WINDOWS\system32>REM 5.レポート（無効化しています）
```

バックアップ結果は【インストールドライブ:\ BackUp \YYYYMMDD(バックアップ実行日時)\ MFP.bak】に保存されます。

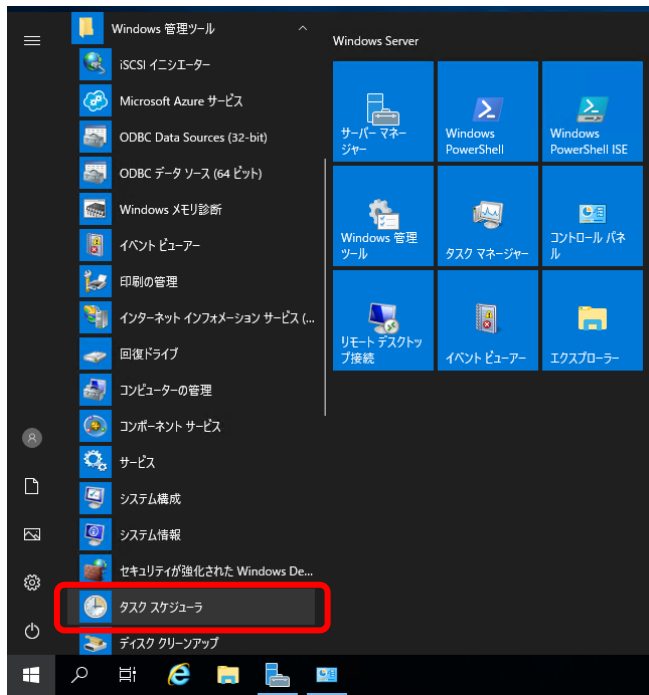


## タスクの作成と登録

バックアップをスケジュール実行する場合は、Windows Server の「タスクスケジューラ」にタスクを登録します。

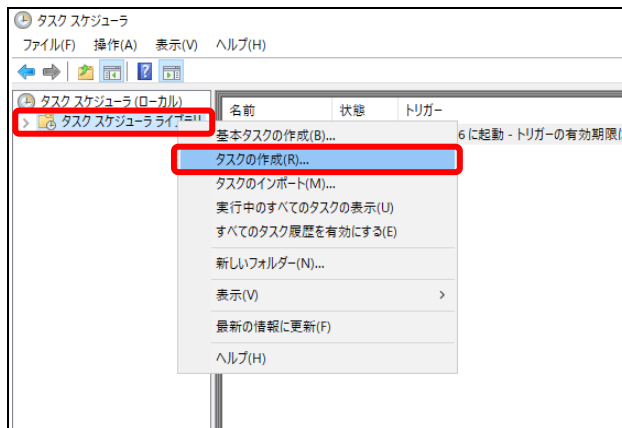
### (1) 「タスクスケジューラ」の起動

[スタート]>[Windows 管理ツール]>[タスクスケジューラ]を起動します。



### (2) タスクの作成

「タスクスケジューラライブラリ」上で右クリックし「タスクの作成」をクリックします。



[タスクの作成]画面の[全般]タブにて以下の設定値の入力を行います。

タスクの作成

全般 トリガー 操作 条件 設定

名前(M): ログ収集システムバックアップ

場所: \*

作成者: WIN-VE8JBC1G6AV\*Administrator

説明(D): ログ収集システムデータベースのバックアップ、インデックス再構成、実行ファイルバックアップの実行

セキュリティ オプション

タスクの実行時に使うユーザー アカウント:  
WIN-VE8JBC1G6AV\*Administrator ユーザーまたはグループの変更(U)...

ユーザーがログオンしているときのみ実行する(B)

ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)

パスワードを保存しない(P) (タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)

最上位の特権で実行する(O)

表示しない(X)

構成(C): Windows Vista™, Windows Server™ 2008

OK キャンセル

項目名	設定値
名前	【任意】
説明	【任意】
セキュリティオプション	ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する

[タスクの作成]画面の[トリガ]タブにて「新規」ボタンをクリックします。

タスクの作成

全般 **トリガー** 操作 条件 設定

タスクの作成時に、タスクのトリガー条件を指定できます。

トリガー	詳細

新規(N)... 編集(E)... 削除(D)

OK キャンセル



[新しいトリガー]画面にて以下の設定値の入力を行い「OK」ボタンをクリックします。

新しいトリガー

タスクの開始(G): スケジュールに從う

設定

1回(N)

毎日(D)

毎週(W)

毎月(M)

開始(S): 2019/12/01 1:00:00  タイムゾーン間で同期(Z)

間隔(O): 1 週間ごとの次の曜日:

日曜日(U)  月曜日(A)  火曜日(T)  水曜日(Y)

木曜日(H)  金曜日(E)  土曜日(R)

詳細設定

遅延時間を指定する(ランダム)(K): 1時間

繰り返し間隔(P): 1時間 継続時間(E): 1日間

繰り返し継続時間の最後に実行中のすべてのタスクを停止する(O)

停止するまでの時間(L): 3日間

有効期限(X): 2020/11/28 17:27:35  タイムゾーン間で同期(E)

有効(B)

OK キャンセル

項目名	設定値
タスクの開始	スケジュールに從う
設定	【任意】
詳細設定	[有効]をチェック

[タスクの作成]画面の[操作]タブにて「新規」ボタンをクリックします。

タスクの作成

全般 トリガー **操作** 条件 設定

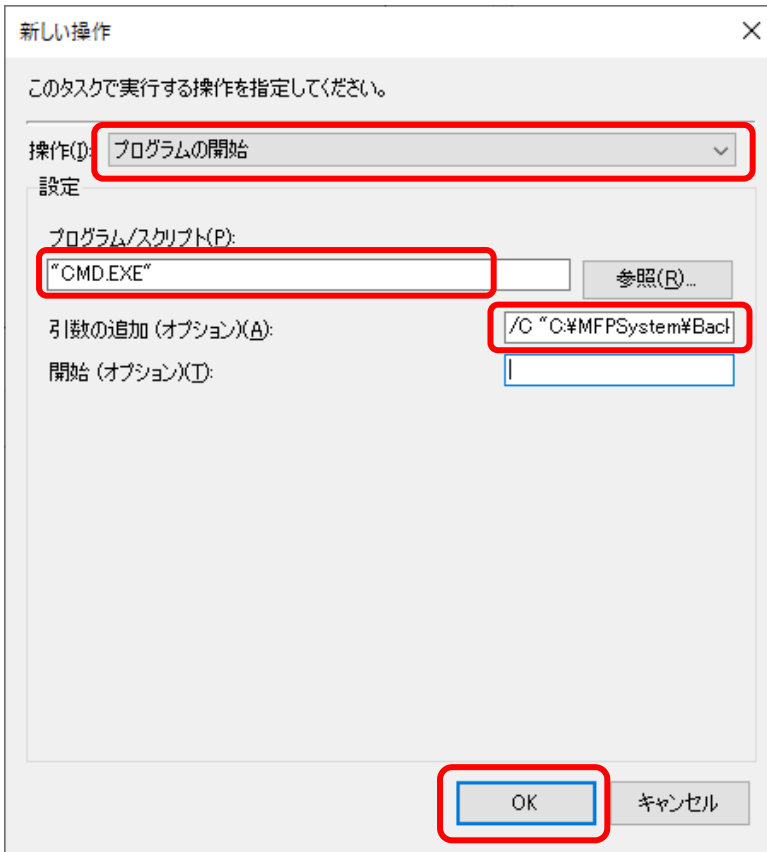
タスクを作成する場合、タスクの開始時に発生する操作を指定する必要があります。

操作 詳細

新規(N)... 編集(E)... 削除(D)

OK キャンセル

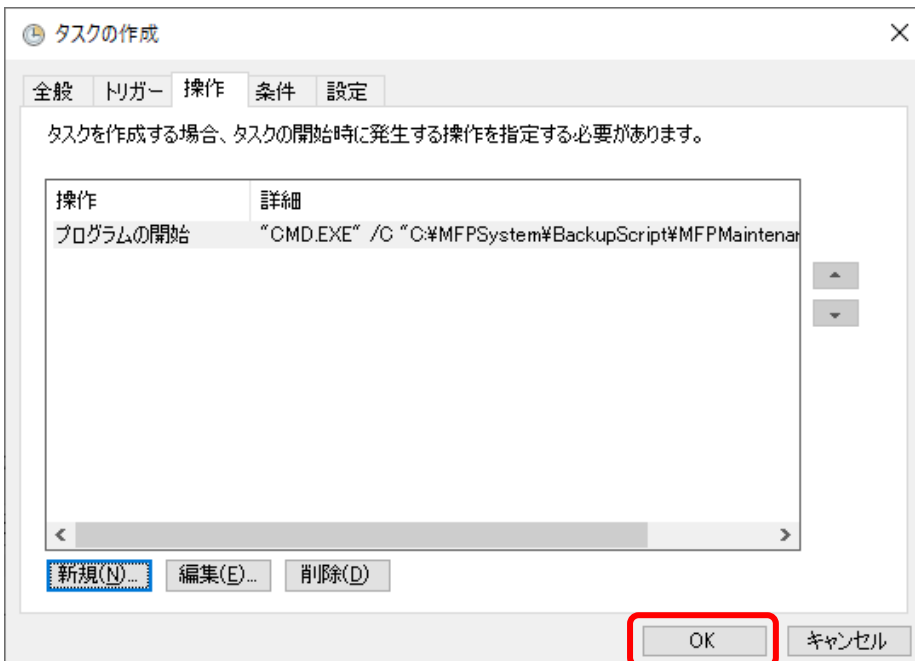
[新しい操作] 画面で以下の設定値の入力を行い「OK」ボタンをクリックします。



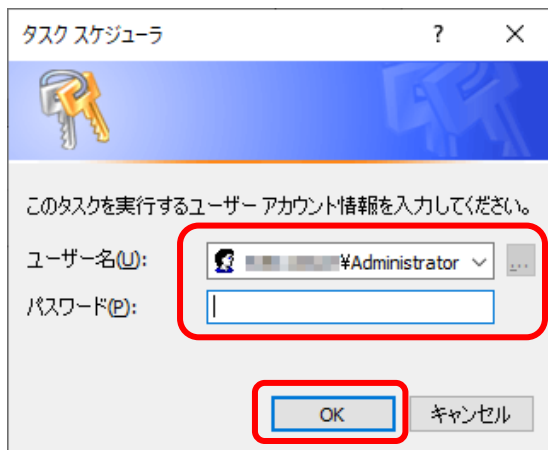
項目名	設定値
操作	プログラムの開始
プログラム/スクリプト	"CMD.EXE"
引数の追加	/C "インストールドライブ: %MFPSystem%BackupScript%MFPMaintenance.bat"

※[設定]に入力する際の[""]は忘れずに入力してください。

[タスクの作成] 画面にて「OK」ボタンをクリックします。



タスクスケジューラのユーザアカウント情報確認画面が表示されます。  
 タスクを実行するユーザアカウント情報を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

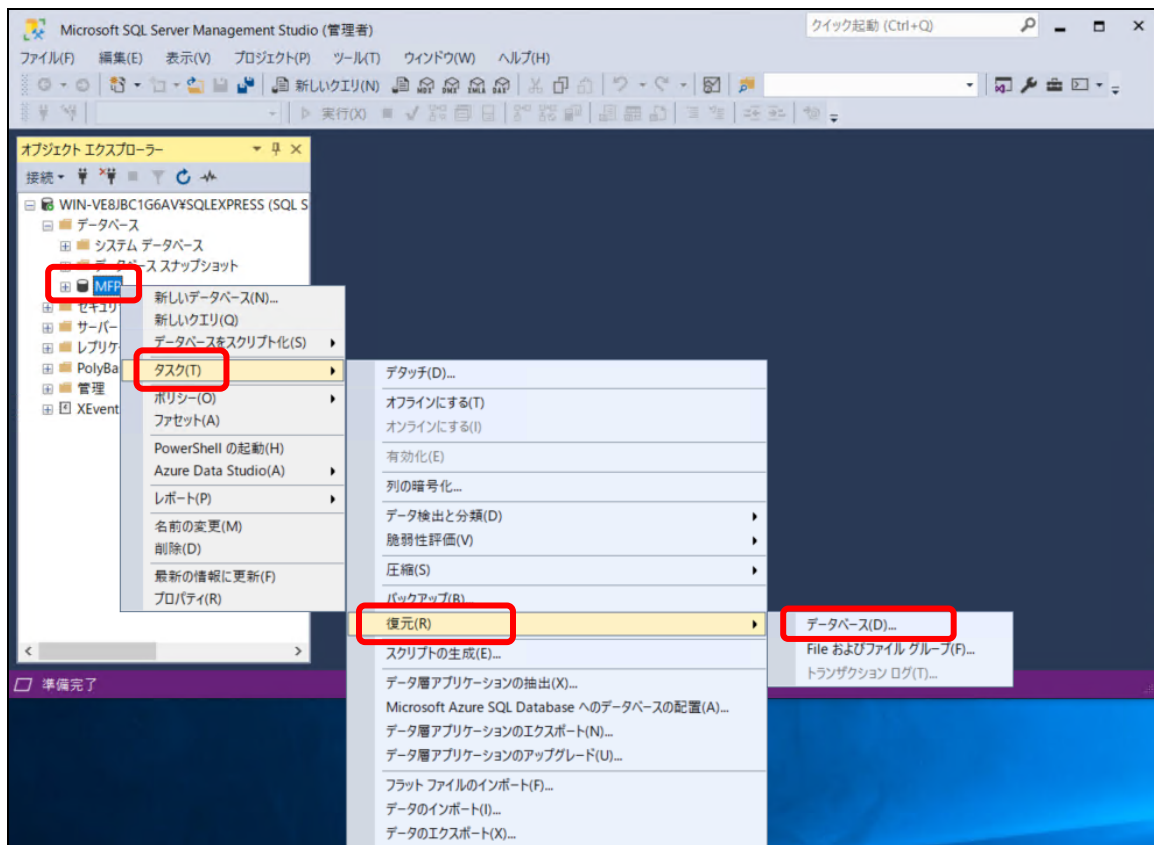


項目名	設定値
ユーザー名	【任意】 ※管理者権限のあるユーザーアカウントを指定してください。
パスワード	[ユーザー名]で指定したユーザーアカウントのパスワードを指定してください。

## 第2章 リストア

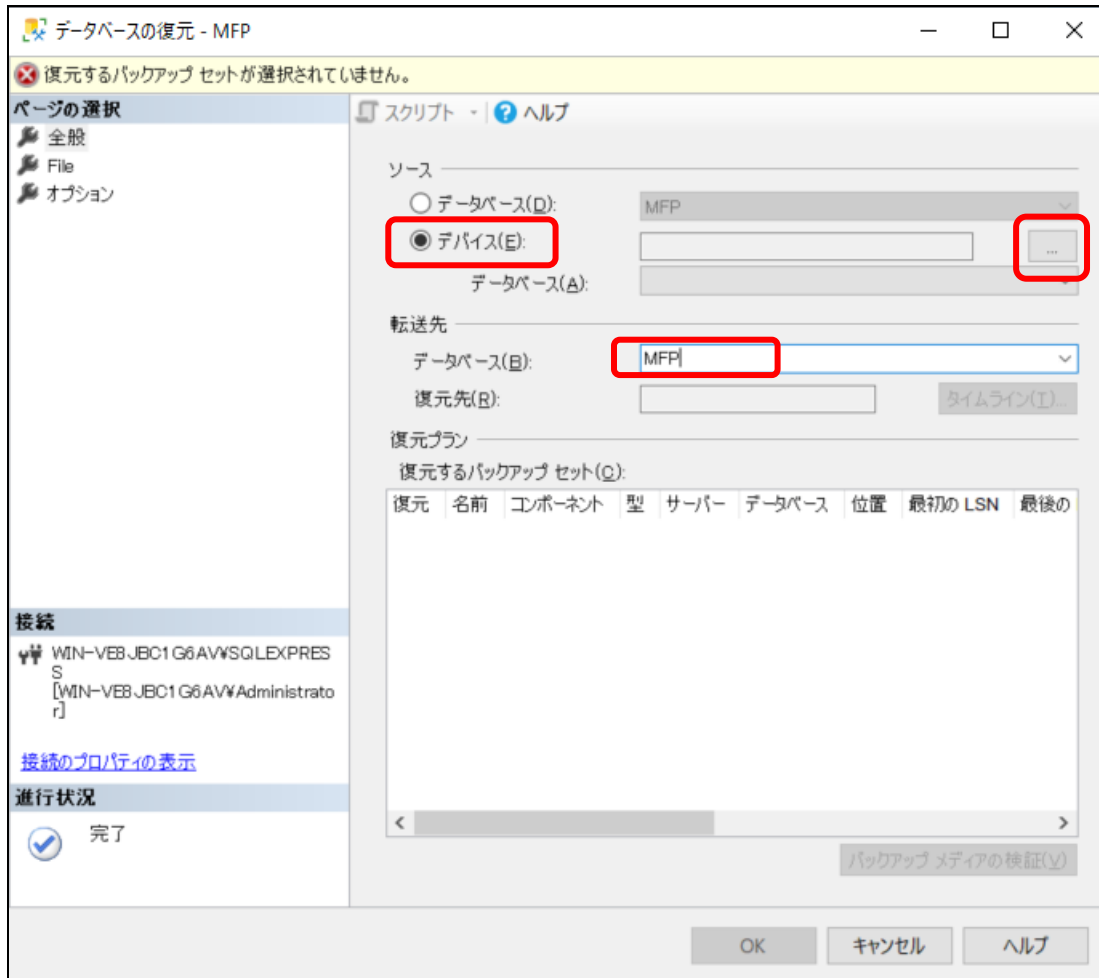
### リストアの実行

- (1) 本システムのサービスの停止
  - ・MFPServiceSystem
  - ・MFPServiceTimer
  - ・MFPServiceTrapの各サービスを停止してください。
- (2) SQL Server Management Studio の起動  
「SQL Server Management Studio」を起動、ログインします。
- (3) 復元メニューの選択  
該当データベースを右クリックし、[タスク]>[復元]>[データベース]を選択します。



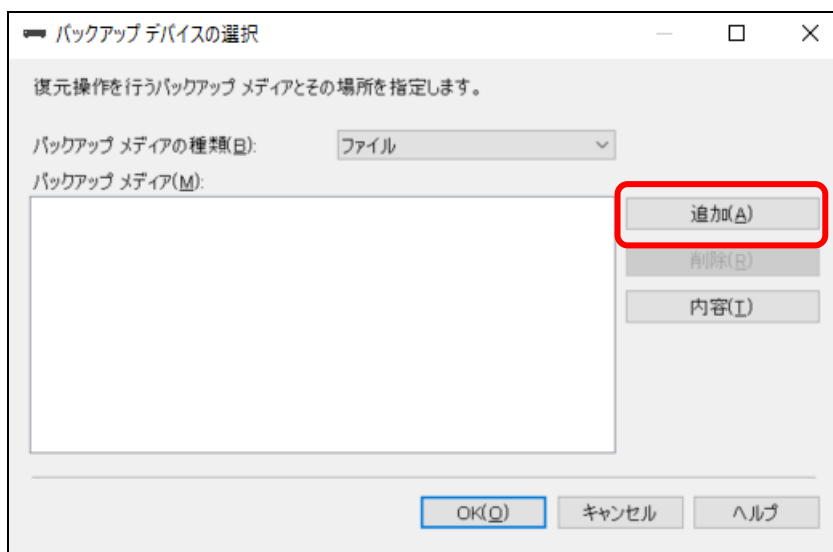
(4) 復元元デバイスの選択

[データベースの復元]画面にて転送先データベースとして「MFP」を選択します。  
 ソースに[デバイス]を選択し、右のボタンをクリックします。

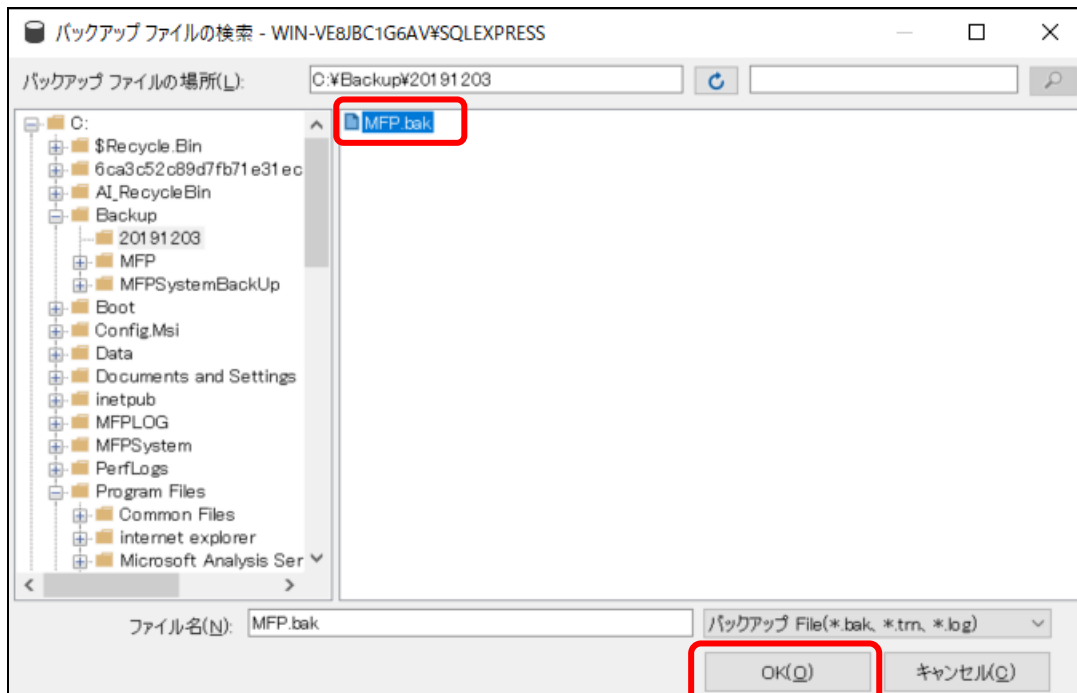


※お使いの SQLServer のバージョンによっては表示箇所が異なります

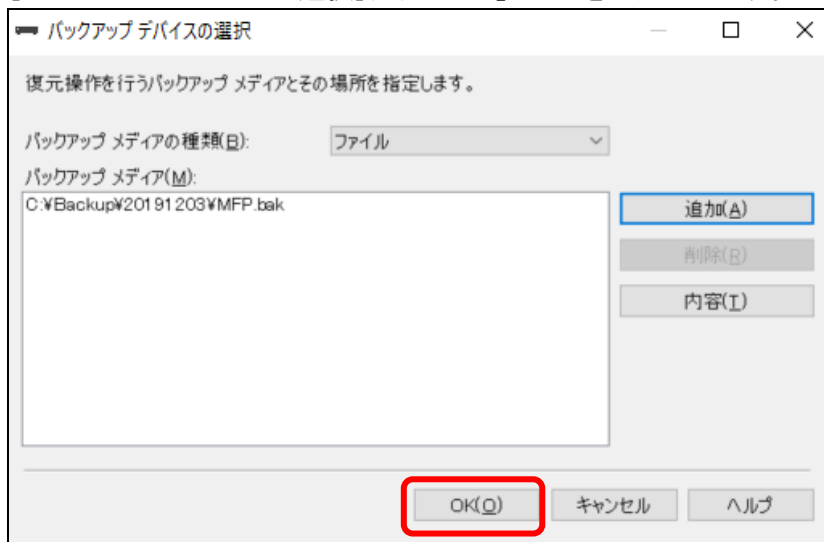
[バックアップデバイスの選択]画面で「追加」ボタンをクリックします。



[バックアップファイルの検索]画面でデータベースのバックアップファイル(MFP.bak)を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

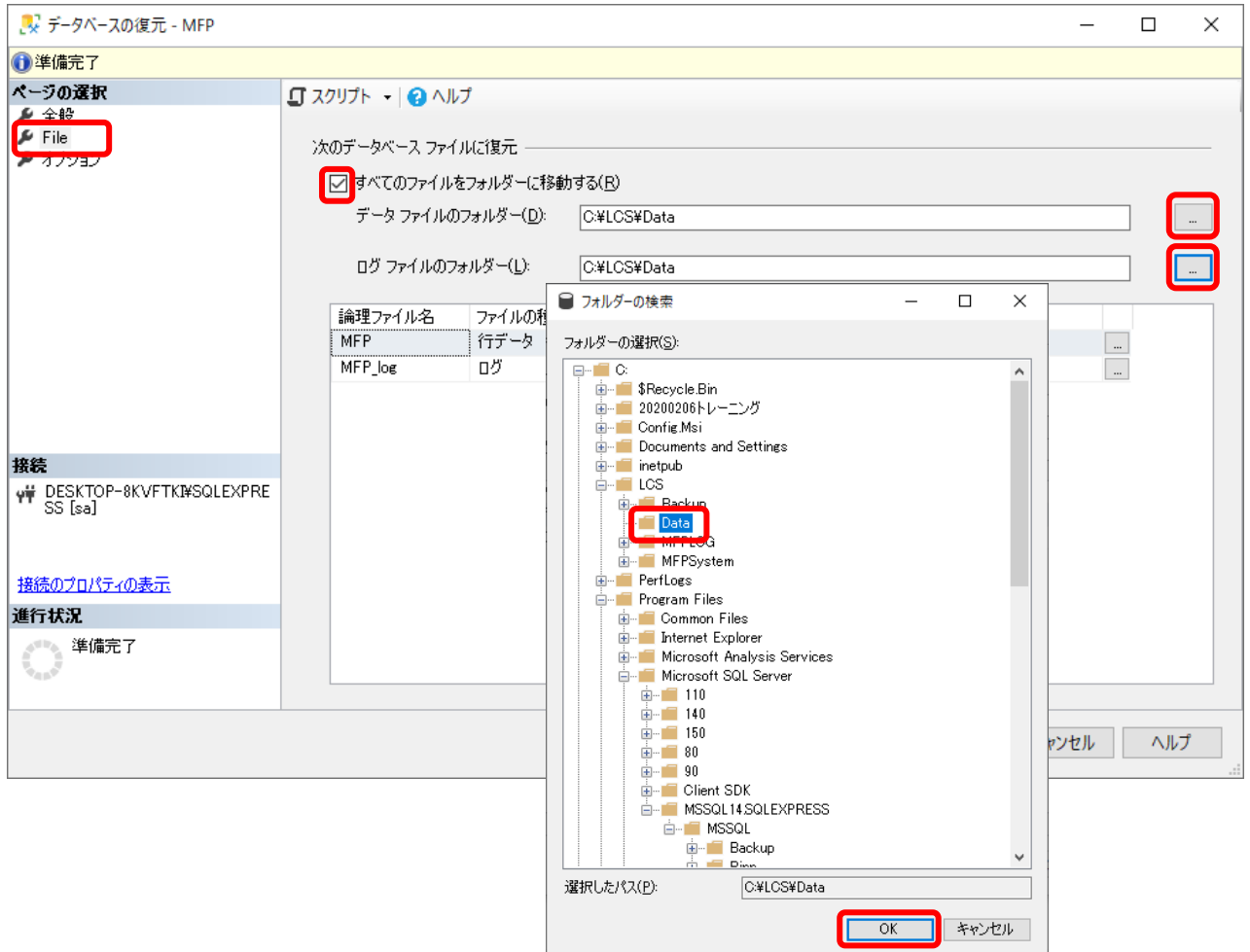


[バックアップデバイスの選択]画面で「OK」ボタンをクリックします。

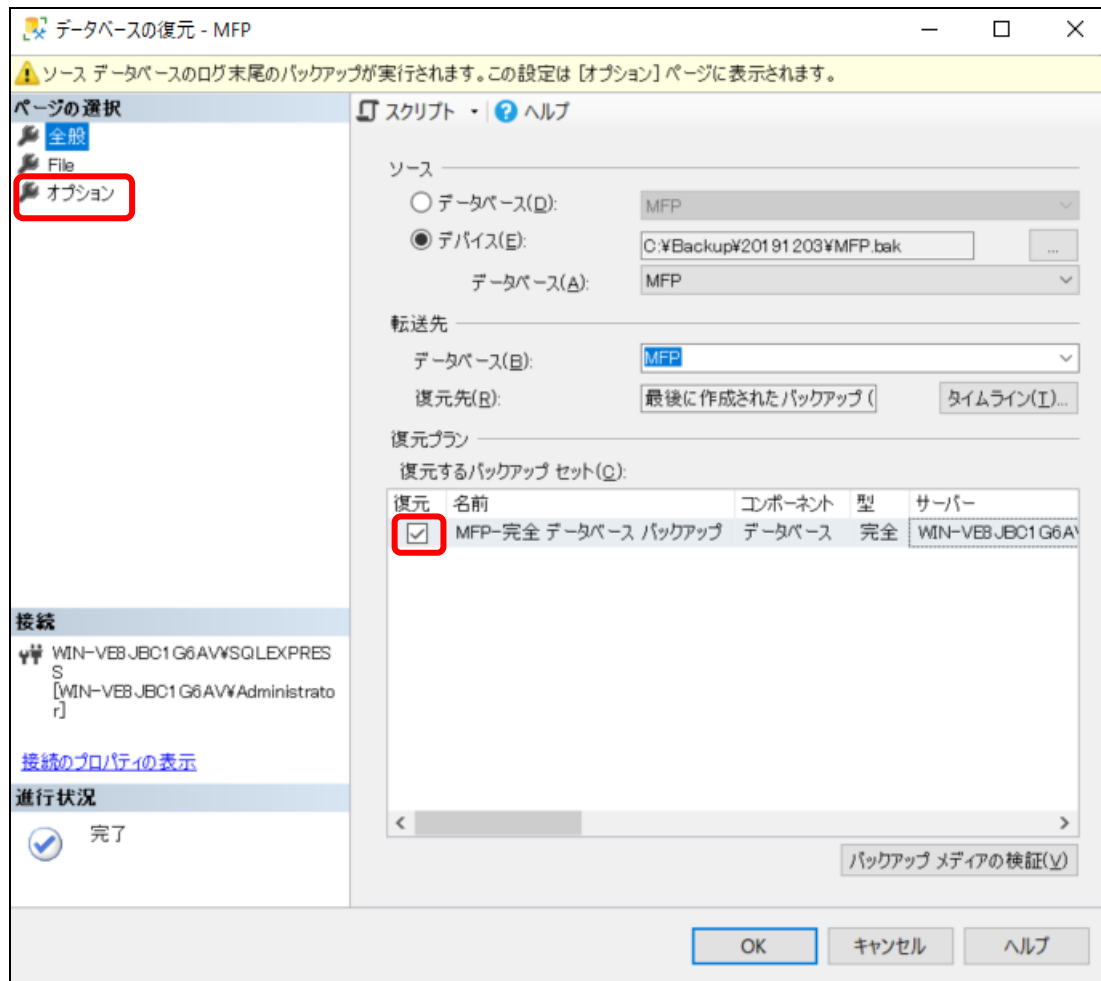


初期値ではリストア先のフォルダがシステム標準の場所になっていますので、LCS インストール時に指定した場所に変更してください。

- ① [データベースの復元]画面で「File」を選択します。
- ② 「すべてのファイルをフォルダに移動する」をチェックします。
- ③ フォルダ指定ボタン  をクリックします。
- ④ [フォルダの検索]画面で、LCSインストール時に選択したフォルダを指定します。
- ⑤ 「OK」ボタンをクリックします。



[データベースの復元]画面の「復元するバックアップセット」で「復元」欄のチェックボックスをチェックし、「ページの選択」の「オプション」をクリックします。



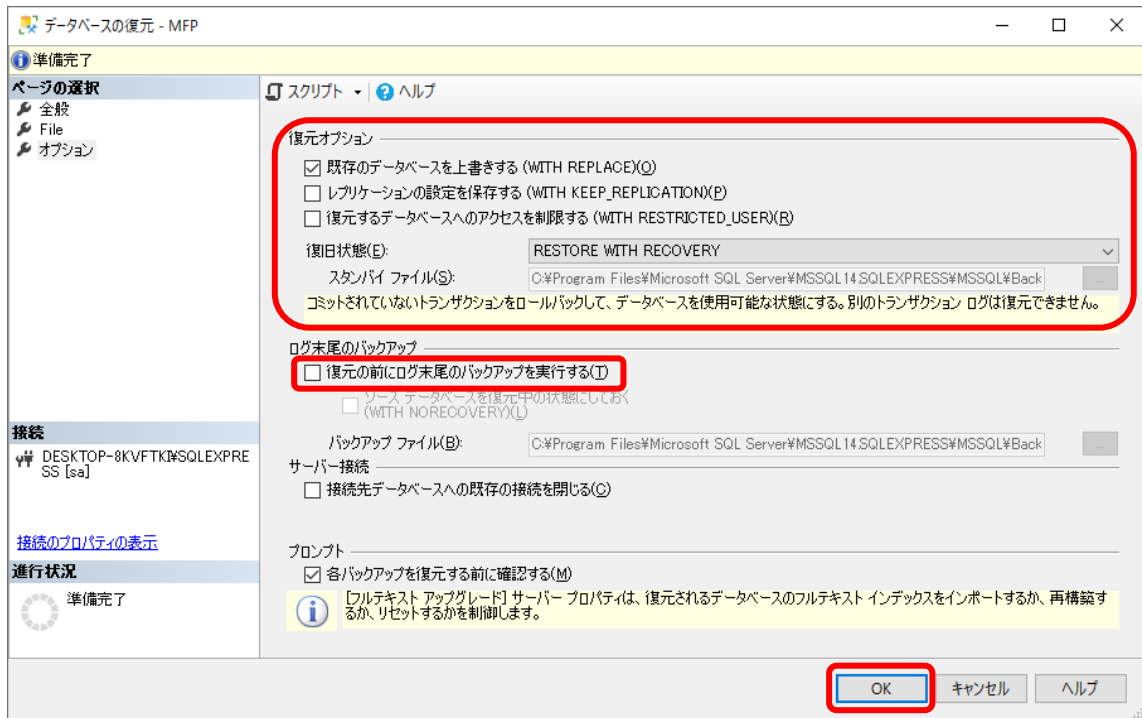


(5) 復元オプション/復旧状態の指定

復元オプション/復旧状態として、以下を選択します。

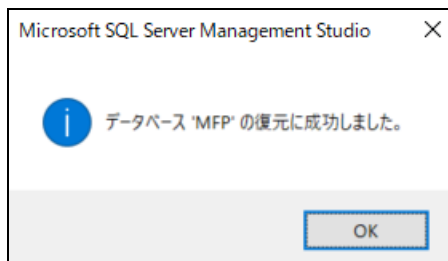
「復元の前にログ末尾のバックアップを実行する」のチェックを外してください。

[OK] ボタンをクリックするとリストアが開始されます。



項目名	設定値	備考
復元オプション	以下を選択 ・既存のデータベースを上書きする	
復旧状態	以下を指定 ・RESTORE WITH RECOVERY	
プロンプト	各バックアップを復元する前に確認する	お使いの SQLServer のバージョンによっては表示箇所が異なります プロンプト _____ <input type="checkbox"/> 各バックアップを復元する前に確認する(M)

リストアが正常に完了すると下記画面が表示されます。



- (6) 本システムのサービスの起動
- ・MFPServiceSystem
  - ・MFPServiceTimer
  - ・MFPServiceTrap
- の各サービスを起動してください。

### 第3章 JOB ログ収集時のエラーリカバリー

#### 概要

JOB ログ収集時に通信上の問題や DB との整合性の問題等が発生した場合、JOB ログを DB に登録できない場合があります。登録できない JOB ログデータは【インストールドライブ:¥MFPSystem¥ErrorLog】に格納されます。

登録できなかった JOB ログを DB に登録する方法について説明します。

- ◇ 「SOAP 通信リカバリー」
- ◇ 「SNMP Trap 通信リカバリー」

#### SOAP 通信リカバリー

拡張子が XML のファイルについてはリカバリーツールを用いて JOB ログ情報の表示・XSD 検証・DB 登録等を行うことができます。

#### リカバリーツールの起動

リカバリーツール“MFPJobLogRecovery.exe”を管理者権限で起動します。

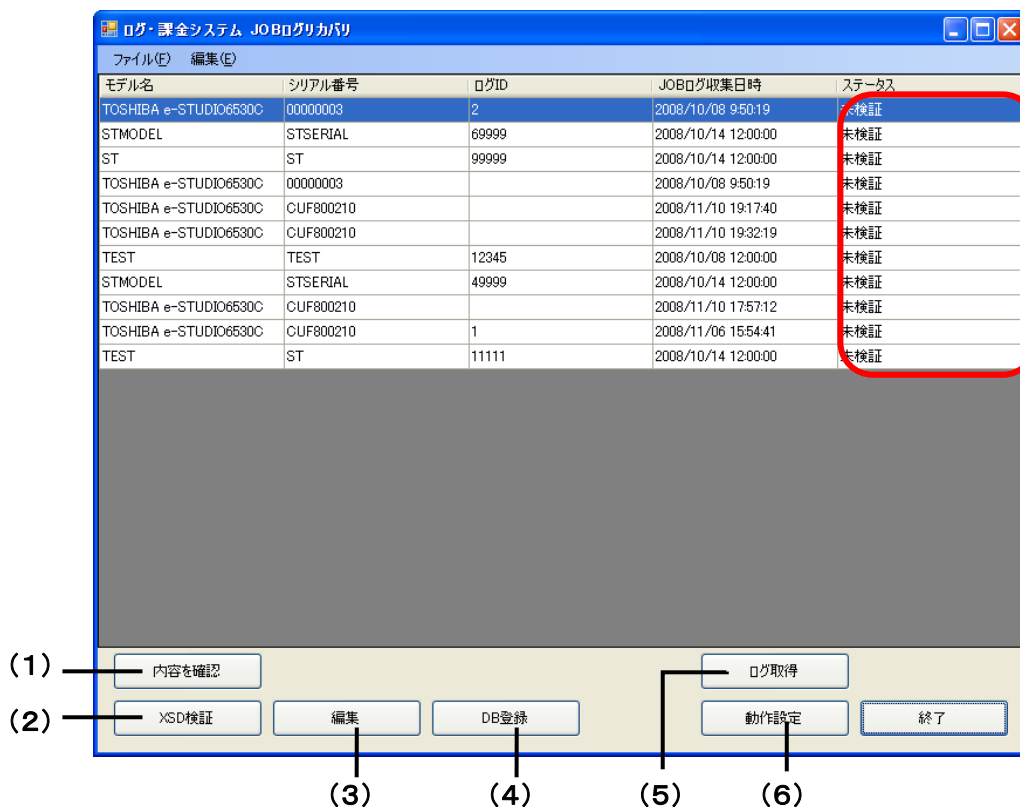
【インストールドライブ:¥MFPSystem¥bin¥MFPJobLogRecovery.exe】

リカバリーツールの起動時に「動作設定」で指定されているエラーログ格納フォルダに出力された XML ファイルの一覧を表示します。

【インストールドライブ:¥MFPSystem¥ErrorLog】

ステータスの表示内容は以下のとおりとなります。

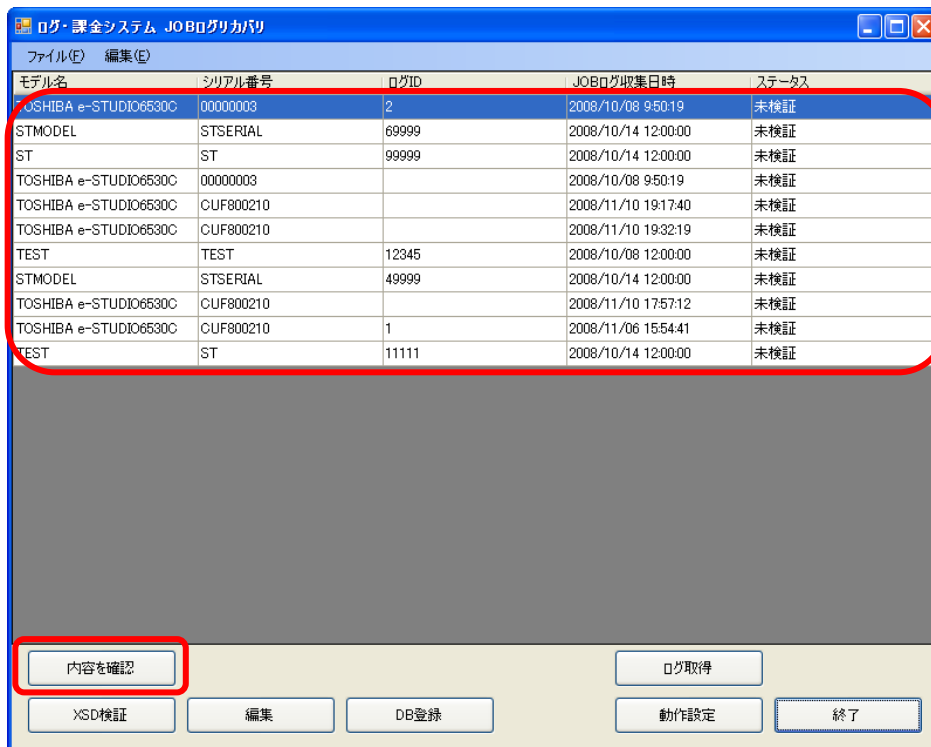
【未検証】 : 起動時



(1) **XML ファイルの確認** <「内容を確認」ボタン>

起動画面より内容を確認したい XML ファイルを選択し「内容を確認」ボタンをクリックします。

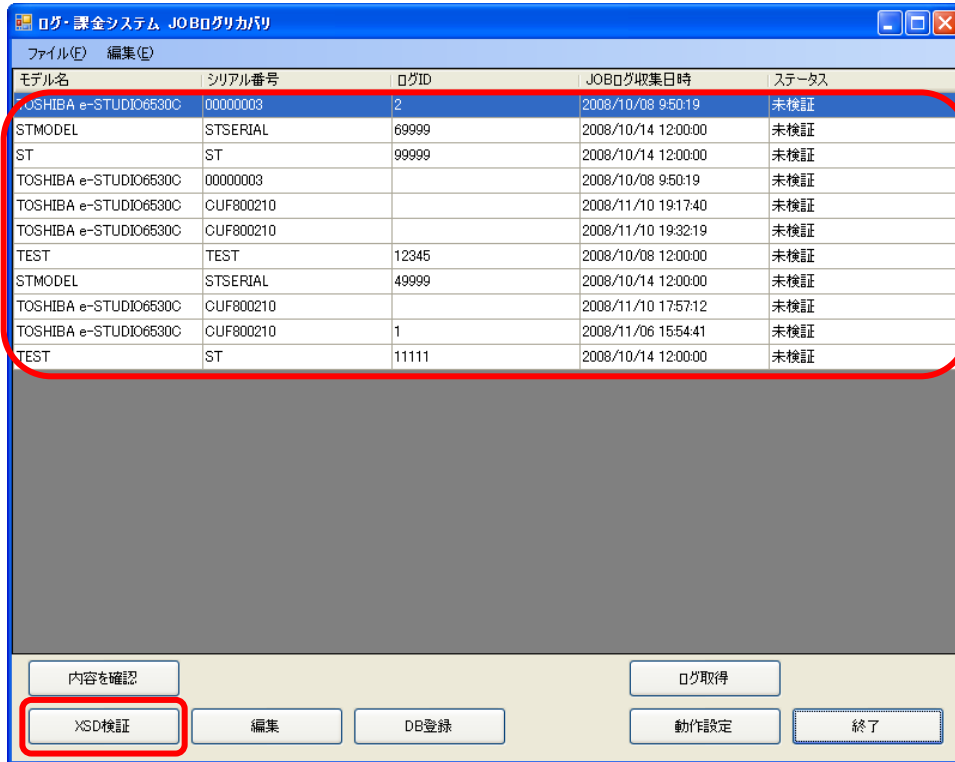
※複数選択可



(2) 検証 <「XSD 検証」ボタン>

起動画面より XSD 検証を行いたい XML ファイルを選択し「XSD 検証」ボタンをクリックします。

※複数選択可

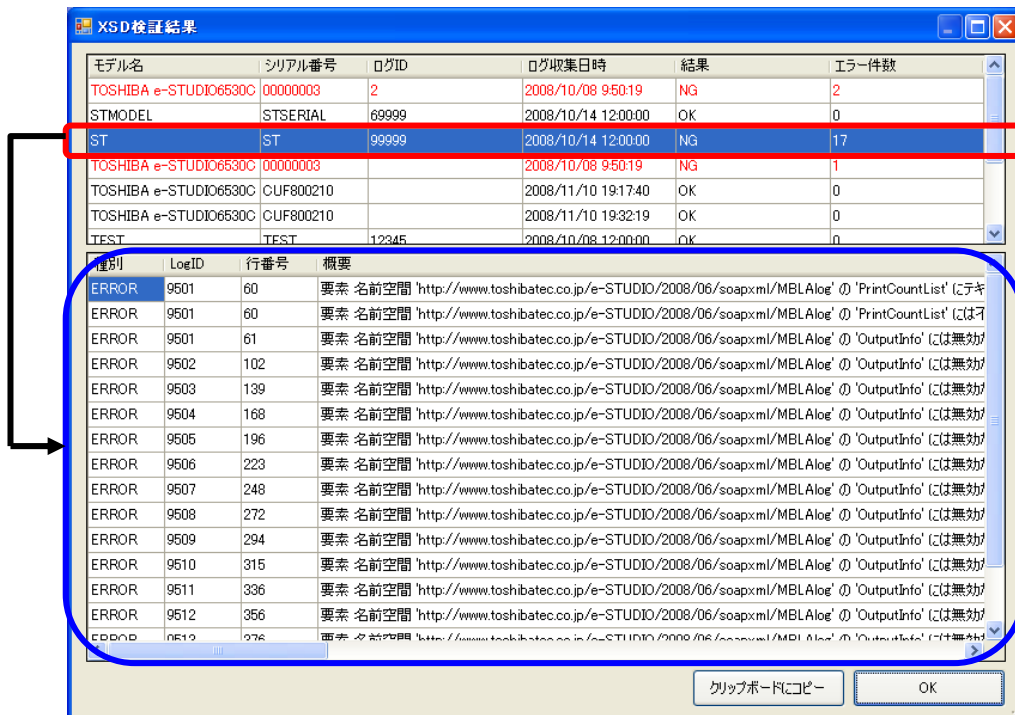


ステータスの表示内容は以下のとおりとなります。

- 【未登録】 : XSD 検証で問題がない場合
- 【XSD 検証失敗】 : XSD 検証で問題がある場合

XSD 検証結果画面が表示されます。

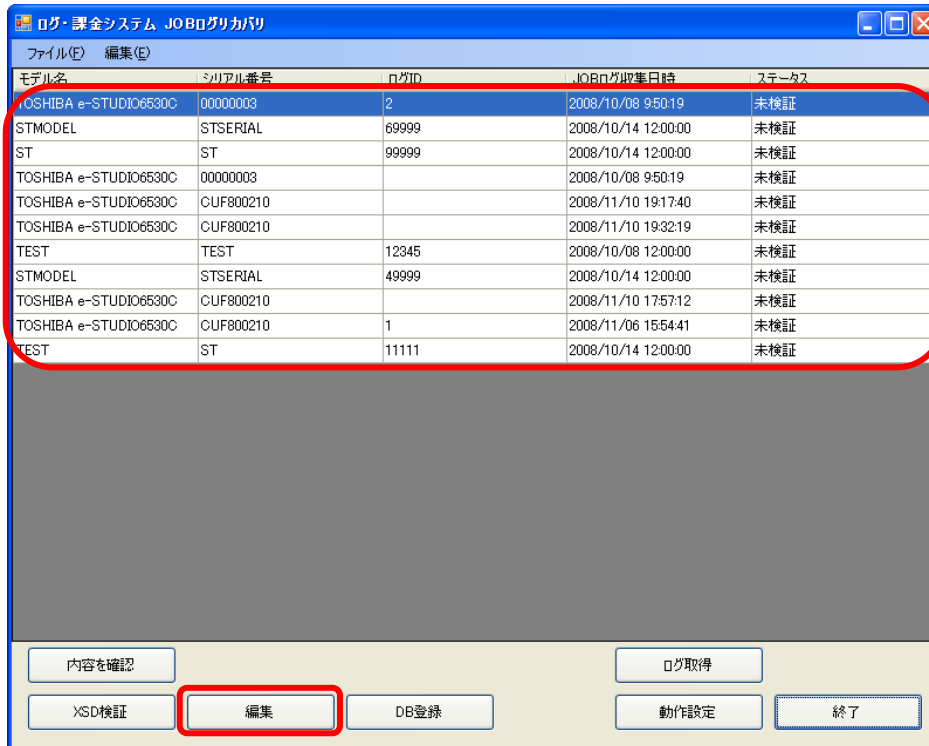
一覧表で選択した XML ファイルに対して XSD (MBLALog. xsd) を使用して内容検証を行い、サブ画面にて検証結果が表示されます。



(3) **リカバリー(編集) <「編集」ボタン>**

起動画面より XML 編集を行いたい XML ファイルを選択し「編集」ボタンをクリックします。

※複数選択可



(4) リカバーしたデータの登録 <「DB 登録」ボタン>

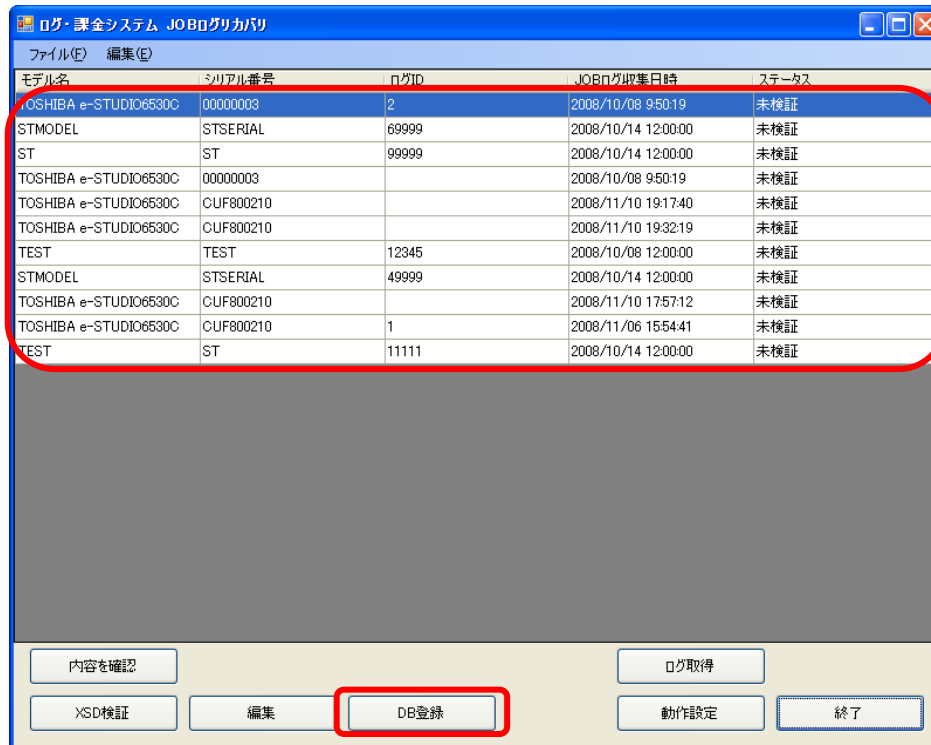
起動画面より DB 登録を行いたい XML ファイルを選択し「DB 登録」ボタンをクリックします。

※複数選択可

登録が完了した XML ファイルは「動作設定」で指定されているバックアップフォルダに移動します。

【インストールドライブ:¥MFPSYSTEM¥ErrorLog¥Backup】

※「動作設定」によりバックアップの有無の選択可



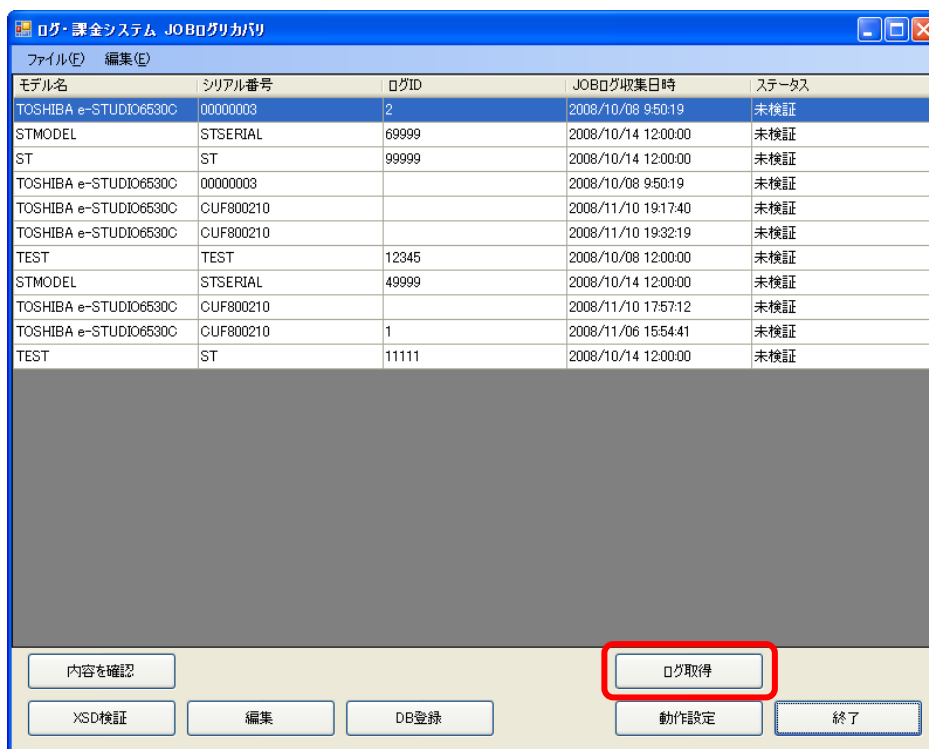
ステータスの表示内容は以下のとおりとなります。

【登録済】 : DB 登録に成功した場合

【登録失敗】 : DB 登録に失敗した場合

(5) **MFP からのログ取得による検証<「ログ取得」ボタン>**

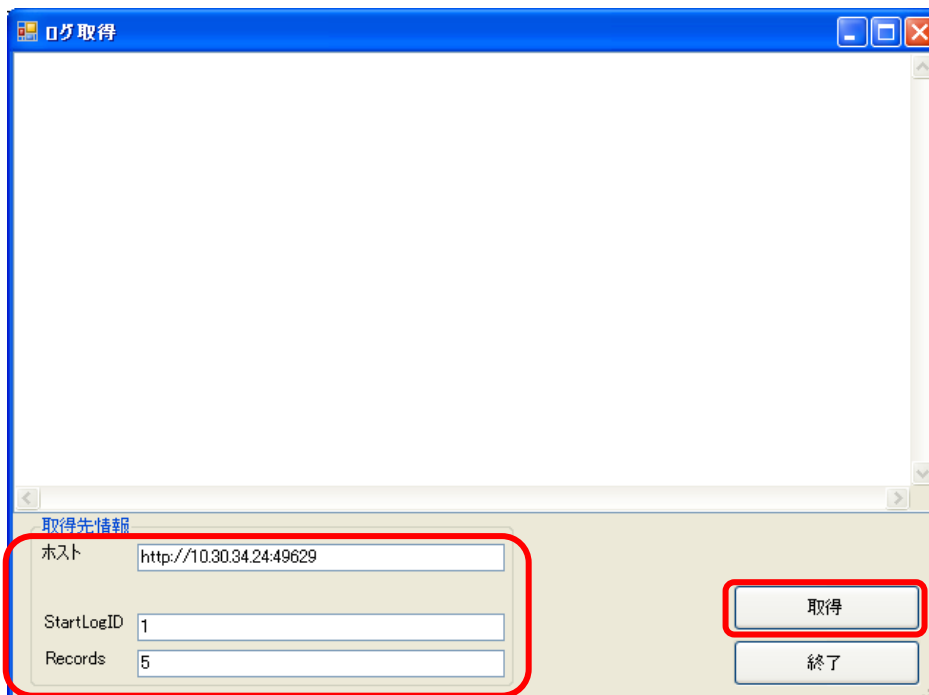
MFP から直接ログを取得し内容を確認したい場合、起動画面より「ログ取得」ボタンをクリックします。



ログ取得画面が表示されます。

指定された MFP (ホスト指定) より JOB ログの取得を行います。

必要情報を入力し「取得」ボタンをクリックします。



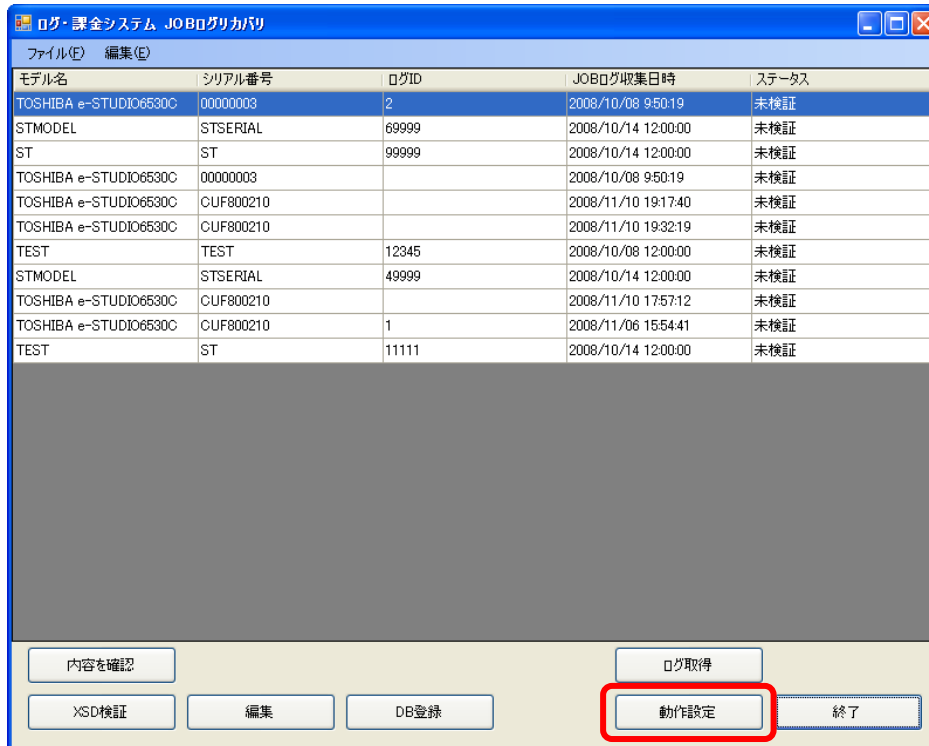
項目名	設定値
ホスト	http(s)://IP アドレス:ポート番号 形式で指定します。
StartLogID	収集対象の開始地点とする LogID を指定します。
Records	取得するレコード数を指定します。



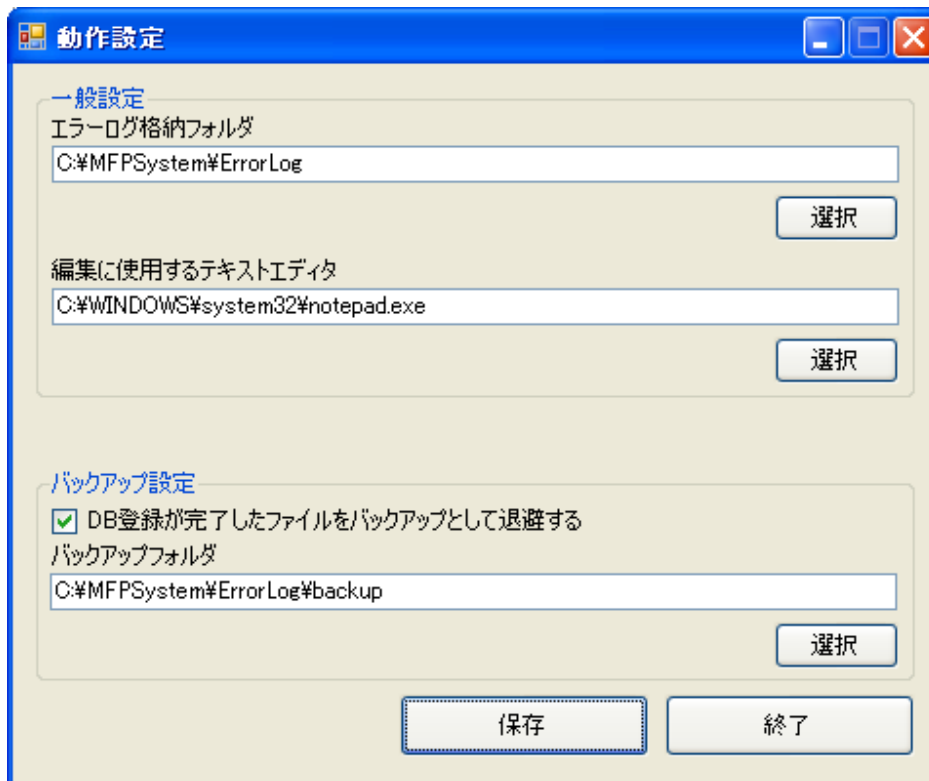
(6) リカバリツールの動作設定 <「動作設定」ボタン>

本ツールの動作に関する設定を行います。

起動画面より「動作設定」ボタンをクリックします。



表示するエラーログファイルの格納フォルダ、XML を編集する際に使用するアプリケーションの登録、DB 登録後の XML ファイルのバックアップフォルダの設定を行います。



項目名	設定値
エラーログ格納フォルダ	参照するログ収集システムのエラーログ格納フォルダパスを指定します。
編集に使用するテキストエディタ	本ツールの編集時に使用するテキストエディタの起動パスを指定します。
バックアップ設定	「DB 登録」を行った際に登録が完了した XML ファイルをバックアップするかどうかの設定が可能です。(初期設定: 有) 本設定をチェックした場合、指定したフォルダパスにバックアップファイルを保存します。

リカバリツール エラー例

リカバリツールにてエラーログ情報として出力された JOB ログ情報を XSD 検証・DB 登録した際に発生するエラー例とその対処方法について記載します。

※文言中における【XXX】の表記はエラー箇所等の変動情報を表しています。

(1) XSD 検証時のエラー例

XML 内の検証を行った際のエラー例を下記に示します。

エラー内容	概要	対処方法
<u>データ型の限界値オーバーによるエラー</u>	【XXX】要素は無効です。値【XXX】はデータ型【XXX】に対して無効です。実際の値が MaxLength 値を超えています。	行番号【XXX】行目 (LogID=【XXX】) の DocumentName タグの値を確認してください。値の文字数が規定されている MaxLength より長いいため検証に失敗しています。該当箇所を修正してください。
<u>タグの値の書式違いによるエラー</u>	【XXX】要素は無効です。値【XXX】はデータ型【XXX】に対して無効です。文字列【XXX】は Duration の有効な値ではありません。	行番号【XXX】行目 (LogID=【XXX】) の Duration タグの値を確認してください。値の書式が Duration 型の書式 (PnYnMnDTnHnMnS) となっていないため検証に失敗しています。該当箇所を修正してください。
<u>タグの値が該当しない列挙型によるエラー</u>	【XXX】要素は無効です。値【XXX】はデータ型【XXX】に対して無効です。列挙型制約に失敗しました。	行番号【XXX】行目 (LogID=【XXX】) の JobType タグの値を確認してください。値に該当する列挙型が存在しないため検証に失敗しています。該当箇所を修正してください。
<u>タグ名が存在しないことによるエラー</u>	要素 名前空間【XXX】の【XXX】には無効な子要素 名前空間【XXX】の【XXX】が含まれています。必要とされる要素は名前空間【XXX】の【XXX】です。	行番号【XXX】行目 (LogID=【XXX】) の FolderName タグの上のタグを確認してください。必要とされる Name タグが存在しないため、検証に失敗しています。該当箇所を修正してください。
<u>タグの値が空によるエラー</u>	【XXX】要素は無効です。値''はデータ型【XXX】に対して無効です。実際の値が指定された値と同等ではありません。	行番号【XXX】行目 (LogID=【XXX】) の ResultCode タグの値を確認してください。値が空文字のため検証に失敗しています。該当箇所を修正してください。

(2) DB 登録時のエラー例

編集した XML ファイルを DB に登録する際のエラー例を下記に示します。

エラー内容	ステータス	対処方法
<u>PK の重複によるエラー</u>	登録失敗 (JOB ログの PK が重複します。ログがすでに収集済みです。)	デバイスを削除後の再登録でログ有効日時の指定が正しくない場合に発生します。 すでに DB へ登録済みのため登録の必要はありませんので該当の XML ファイルを削除してください。
<u>無効な文字列によるエラー</u>	登録失敗 (指定されたエンコードに無効な文字があります。行【XXX】、位置【XXX】です。)	データの中に、文字コードが無効なものが混ざっています。 該当箇所を修正してください。
<u>文字列の定義長超過によるエラー</u>	登録失敗 (JOB ログを JOB ログテーブルに追加不可 (DB の検索に失敗しました。: 文字列データまたはバイナリデータが切り捨てられます。ステートメントは終了されました。))	データの中に、DB のデータ定義長を超過した値が混ざっています。 該当箇所を修正してください。

**SNMP Trap 通信リカバリー**

拡張子が JLG のファイルについては手動で検証・DB 登録等を行います。

(3) ファイル内容の検証

システムログを参照し、エラー原因を取り除いてください。

(4) 受信データ一時保存フォルダへ移動

エラーの原因を取り除いたファイルを Trap 受信データ一時格納フォルダ【インストールドライブ: ¥MFPSystem¥ReceiveLog】に移動します。

移動したファイルは以下のタイミングで処理され、DB に登録されます。

- ・いずれかの MFP から JOB ログデータを検出した時点
- ・即時収集機能により選択した MFP から JOB ログデータを検出した時点

## 第4章 本システムの動作変更

本システムの動作を変更する場合の手順について説明します。

### ディスクバリの動作を変更する場合

◇設定ファイル:【インストールドライブ:¥MFPSystem¥bin¥TargetModel.txt】

ディスクバリ実行時:ディスクバリする機種を変更

ディスクバリを実行する際にディスクバリする機種の追加・変更を設定します。

◆設定方法:ファイルに追加・変更したい機種【sysObjectID】を挿入もしくは修正します。

(例):1.3.6.1.4.1.1129.2.3.29.7

### 定時排出の動作を変更する場合

◇バッチファイル:【インストールドライブ:¥MFPSystem¥SetupExportSP.bat】

#### ジョブログ排出モードの設定

ジョブログ排出モードを「V1.1 互換モード」または「V1.2 モード」に設定します。

コマンドプロンプトを管理者権限で起動し、カレントディレクトリを [MFPSystem] フォルダに移動してから "SetupExportSP.bat" を実行します。実行後、以下を入力します。

表示メッセージ	入力内容	備考
データベースサーバー名を入力してください。	[コンピュータ名]¥SQLEXPRESS	使用するコンピュータ名を付加してください。
ユーザー名を入力してください。	sa	SQLServer のユーザーID 固定値になります。
パスワードを入力してください。	mfpjob	データベース構築時に設定したパスワードを入力します。
ジョブログ排出モード V1.1 互換モード=1、V1.2 モード=2 を入力してください。	1: V1.1 互換モード。V1.1 までの排出モードです。 2: V1.2 モード。V1.2 以降の排出モードです。	ジョブログ排出モードとは、排出方式を切り替えるモードです。

## カウント集計の動作を変更する場合

◇ バッチファイル:【インストールドライブ:¥MFPSystem¥SetupCountSP.bat】

### カウント集計の基準日時の設定

カウント集計の基準日時を「JOB ログ実行日時」または「JOB ログ収集日時」に設定します。  
 コマンドプロンプトを管理者権限で起動し、カレントディレクトリを [MFPSystem] フォルダに移動してから  
 “SetupCountSP.bat”を実行します。実行後、以下を入力します。

表示メッセージ	入力内容	備考
データベースサーバー名を入力してください。	[コンピュータ名]¥SQLEXPRESS	使用するコンピュータ名を付加してください。
ユーザー名を入力してください。	sa	SQLServer のユーザーID 固定値になります。
パスワードを入力してください。	mfpjob	データベース構築時に設定したパスワードを入力します。
カウント集計日付 収集日=1、実行日=2 を入力してください。	1: 収集日。ログ収集サーバーが収集した日です。 2: 実行日。ジョブが実行された日です。	カウント集計日付とは、カウント集計の基準となる日付です。

### Windows イベントログへの登録について

◇ 設定ファイル:【インストールドライブ:¥MFPSystem¥bin¥MFPSysLog.xml】

#### Windows イベントログへの登録設定

Windows イベントログへ出力(Error/Warning/information)するか出力しない(off)を設定します。

設定パラメータ:

【LogMessage】のうち、“windowsevent”の存在する項目

設定値:

information(情報)  
 warning(警告)  
 error(エラー)  
 off(出力しない)

※設定変更時は MFPSysLog.xml を保存後、以下サービスの再起動を実施してください

MFPServiceSystem  
 MFPServiceTimer  
 MFPServiceTrap

例:

```
<Log type="監視" message="通信エラー" notify="1"
account="Administrator" source="JobLogCollection"
windowsevent="error">2000</Log>
```

Log type	message	notify	account	source	windows event (初期値)	ID
監視	通信エラー	1	Administrator	JobLogCollection	error	2000
監視	ログインエラー	1	Administrator	JobLogCollection	off	2001
監視	MFP 自動更新	1	Administrator	JobLogCollection	off	2002
監視	不正 JOB (禁止時刻)	1	SecurityManager	JobLogCollection	off	2003
監視	不正 JOB (禁止曜日)	1	SecurityManager	JobLogCollection	off	2004
監視	不正 JOB (不正文字)	1	SecurityManager	JobLogCollection	off	2005
監視	部門上限枚数 95%超過	1	AccountManager	JobLogCollection	off	2006
監視	部門上限枚数超過	1	AccountManager	JobLogCollection	off	2007
監視	ユーザ上限枚数 95%超過	1	AccountManager	JobLogCollection	off	2008
監視	ユーザ上限枚数超過	1	AccountManager	JobLogCollection	off	2009
監視	HDD 使用率超過	1	Administrator	MFPServiceSystem	off	2010
監視	アプリケーション連携補完不可データ超過	1	Administrator		off	2011
監視	エラーログ出力(未登録)	1	Administrator	JobLogCollection	off	2012
監視	収集エラー	1	Administrator	JobLogCollection	error	2013
監視	復旧通知	1	Administrator	JobLogCollection	off	2014
監視	文字変換	1	Administrator	JobLogCollection	off	2015
監視	Job ログ 0 件収集	1	Administrator	JobLogCollection	off	2016
処理結果	システムサービス起動失敗	1		MFPServiceSystem	error	5000
処理結果	タイマサービス起動失敗	1		MFPServiceTimer	error	5001
処理結果	トラップ受信サービス起動失敗	1		MFPServiceTrap	error	5002

## 1 ページに表示する項目数を変更する場合

---

◇ バッチファイル:

【インストールドライブ:¥MFPSystem¥UpdateNumOfItemsToDisplayInPage.bat】

### 1 ページに表示する項目数の設定

デバイス数、ユーザ数、部門数など画面 1 ページに表示できる項目数を変更します。

コマンドプロンプトを管理者権限で起動し、カレントディレクトリを [MFPSystem] フォルダに移動してから "UpdateNumOfItemsToDisplayInPage.bat" を実行します。実行後、以下を入力します。

表示メッセージ	入力内容	備考
データベースサーバー名を入力してください。	[コンピュータ名]¥SQLEXPRESS	使用するコンピュータ名を付加してください。
ユーザー名を入力してください。	sa	SQLServer のユーザーID 固定値になります。
パスワードを入力してください。	mfpjob	データベース構築時に設定したパスワードを入力します。
Please enter number of items to display in page (Valid integer 20 to 1000)	20 - 1000	項目数が多いと実用面で問題が発生する場合がありますので、多くても 200 - 500 程度に設定することをお勧めします。



## デバイスの管理者パスワードを暗号化して設定する場合

◇設定ツール:【インストールドライブ:¥MFPSystem¥bin¥Stage2PasswordEnc.exe】

◇設定ファイル:【インストールドライブ:¥MFPSystem¥MFPSystem.ini】

### 暗号化パスワードの設定

登録されているデバイスの情報を収集するために、ODCA (Stage 2) I/F を使用します。そのため、デバイスの管理者パスワードを以下の方法で暗号化して MFPSystem.ini ファイルに設定する必要があります。パスワードは 3 つまで設定できます(1 つは初期値として設定されています)。

- (1) Stage2PasswordEnc ツールを起動します。
- (2) デバイスの管理者パスワードを入力して[Submit]をクリックします。



- (3) 暗号化されたパスワードが画面に表示されたら、[Copy to Clipboard]をクリックします。



- (4) MFPSystem.ini ファイルを開き、[LogRetrieverStage2IF]セクションの Stage2Password1、Stage2Password2、Stage2Password3 の値としてコピーします。 Stage2Password3 には、デバイス管理者の初期パスワード(123456)に相当する値が設定されています。必要に応じて、値を変更してください。

```
LogRetrieverStage2IF
Stage2Password1=xxxxxxxxx
Stage2Password2=xxxxxxxxx
Stage2Password3=xxxxxxxxx(初期値)
```

- (5) サービスを再起動します。

## 第5章 デバイス監視通知

デバイス監視通知について説明します。

### 通信エラー

---

◆該当機種

全機種共通

◆検知内容

ログ収集機能が[ON]の管理デバイスにおいて、一定期間通信に失敗し続けた。

◆判定時期

定期および即時収集実行の際に判定を行う。

◆判定条件

「通信エラー判定日数」以上、SNMP によるデバイス情報取得が行えなかった場合に通知を行う。

◆復旧条件

次の定期および即時収集実行の際に正常終了できた場合に復旧と判定する。

\* 本設定を行うことで通信エラーからの復旧通知も行われる。

### 一括編集デバイス数エラー

---

◆該当機種

全機種共通

◆検知内容

デバイス情報の一括編集に失敗した。

◆判定時期

デバイス情報の一括編集を実行する際に判定を行う。

◆判定条件

一括編集の対象デバイス数が多すぎる場合に通知を行う。

◆復旧条件

一括編集対象デバイス数を減らした場合に復旧と判定する(一括編集可能なデバイス数は、デバイスの状態と設定内容によって異なる)。

## 収集エラー

---

### ◆該当機種

e-STUDIO4520C/6530C/455/855 Series

### ◆検知内容

ログ収集機能が[ON]の管理デバイスにおいて、JOB ログの収集に失敗した。  
HTTP (SOAP) の通信時のみに適用されます。

### ◆判定時期

定期および即時収集実行の際に判定を行う。

### ◆判定条件

SOAP 通信による JOB ログ収集の際に `CommunicationException` が発生した場合に通知を行う。

### ◆復旧条件

次回の定期および即時収集実行の際に正常終了できた場合に復旧と判定する。

\* 本設定を行うことで収集エラーからの復旧通知も行われる。

## 0 件収集エラー 1

---

### ◆該当機種

e-STUDIO4520C/6530C/455/855 Series

### ◆検知内容

ログ収集機能が[ON]の管理デバイスにおいて、一定期間 JOB ログの収集件数 0 件が継続した。

### ◆判定時期

定期および即時収集実行の際に判定を行う。

### ◆判定条件

「0 件収集判定日数」以上、該当デバイスの JOB ログが更新されなかった場合に通知を行う。

### ◆復旧条件

次回の定期および即時収集実行の際に正常終了できた場合に復旧と判定する。

\* 本設定を行うことで 0 件収集エラーからの復旧通知も行われる。

## 0 件収集エラー 2

---

### ◆該当機種

e-STUDIO4520C/6530C/455/855 Series 以外

### ◆検知内容

ログ収集機能が[ON]の管理デバイスにおいて、Trap データ受信件数無しが一定期間継続した。

### ◆判定時期

定期および即時収集実行の際に判定を行う。

### ◆判定条件

「0 件収集判定日数」以上、該当デバイスの「プリントカウント値」が変化せず、JOB ログが更新されなかった場合に通知を行う。

### ◆復旧条件

次回の定期および即時収集実行の際に正常終了できた場合に復旧と判定する。

\* 本設定を行うことで 0 件収集エラーからの復旧通知も行われる。

## 0 件収集エラー 3

---

### ◆該当機種

e-STUDIO4520C/6530C/455/855 Series 以外

### ◆検知内容

ログ収集機能が[ON]の管理デバイスにおいて、Trap データ送信不可だった。

### ◆判定時期

定期および即時収集実行の際に判定を行う。

### ◆判定条件

「0 件収集判定日数」以上、該当デバイスの「プリントカウント値」が変化しているが、JOB ログが更新されなかった場合に通知を行う。

### ◆復旧条件

次回の定期および即時収集実行の際に正常終了できた場合に復旧と判定する。

\* 本設定を行うことで 0 件収集エラーからの復旧通知も行われる。

## ログインエラー

---

◆該当機種  
全機種共通

◆検知内容  
TopAccess およびコントロールパネルへのログインに失敗した。

◆判定時期  
該当ログ受信時に判定を行う。

◆判定条件  
TopAccess およびコントロールパネルへのログインに失敗した場合に通知します。

◆復旧条件  
なし(復旧通知されない)

## 自動更新

---

◆該当機種  
全機種共通

◆検知内容  
IP アドレス等のデバイス情報の変更を検出し、自動更新を行った。

◆判定時期  
該当ログ受信時またはディスカバリの定期実行時に判定を行う。

◆判定条件  
IP アドレス等のデバイス情報の変更を検出し、自動更新を行った場合に通知します。

◆復旧条件  
なし(復旧通知されない)